

13期 笑顔はじけるボイストレーニング 10月

1日 午前

新しい早口言葉を練習しました。

「シカもカモシカも 鹿の仲間だけど、アシカは鹿の仲間ではない」



15日 午前

オープン講座の日で、8名の参加がありました。

発声練習に続いて、「ふれあい交流際」で歌う歌の練習をしました。もう歌詞を覚えて歌わないといけなくて、ちょっぴりドキドキ!「あっ、覚えてない!!」と思った場面もあったのではないのでしょうか?

11月5日、12日とあと2回練習したら本番です。皆さん、しっかり歌詞を覚えましょう。

司会やナレーターをしてくださる方も、読んでいる感じではなくお客さんに語りかける感じで、上手に話してくださいました。(ここも覚えてないといけない).....ご苦労様です。

15日 午後

班ごとの自主活動です

1班は大阪市美術館「行動展」鑑賞することで決まりましたが、当日欠席者が多く5名の参加になりました。素晴らしい絵画を鑑賞した後、阿倍野ハルカスに行きました。天候に恵まれ、良き秋晴れの1日を過ごすことになりました。



2班は池田市の「ふぐ好」で昼食。食後のミーティングとおしゃべりの花が咲きました。その後カラオケのビックエコーに場所を移し、カラオケの操作に悪戦苦闘しつつ交流祭の練習に励みました。

3班は石橋駅近くの大阪大学博物館と豊中キャンパスを散策。博物館では、キャンパスから出土したマチカネワニの実物化石も見学。ランチは学食カフェテリアで、安くて大盛の定食と、麺類を楽しみました。



4班は蛍池より一駅モノレールに乗り大阪伊丹空港に到着。ラジャー展望デッキで、長い滑走路にて航空機の離着陸を堪能した。その後、ラウンジお茶をしながらミーティングのひと時でした。

29日 大学提携授業

「クマと人間との軋轢の解消のためにできること」

～ヒューマンディメンション研究から分かったこと～

立命館大学政策科学部/政策科学研究科 桜井 良 准教授

【講座の内容】

- *自己紹介
- *現在起きているクマの問題について
- *クマはメディアでどのように報道されてきたのか？
新聞報道の内容分析
- *クマと共存する地域社会とはどのようなものか？
兵庫県の事例
- *クマと共存する地域社会とはどのようなものか？
北海道知床の事例
- *クマと共存する社会を構築するために
- *質問への回答



感想 メディアからは連日クマの被害が報道されていますが、桜井先生は共存するために、私たちがしなければならないことをしっかり話され、許容力のある社会はできるし、どうすれば共存できるのかを追及され地域の人たちと実践されているのがすごいなと思いました。

(広報 1班)